

学位論文審査の結果の要旨

田中哲司

本研究は、トマトにおいて効率的な育種を行うための実用的な研究である。その成果として、トマト品種に単為結果性および短節間性形質を交雑育種により導入する際の効率的な選抜法を開発した。また、単為結果性と短節間性を併せ持つ品種の育成が可能か検証し、低頻度ではあるものの、両形質を持ち、実用形質も優れる系統の作出が可能であることを明らかにした。さらに、一連の研究結果を踏まえて、短節間性と単為結果性を併せ持つ実用品種を効率的に育成する方法を提案している。これらの知見や提言は、経験が重要視される育種選抜を熟練のいない簡便な方法により効率化する画期的なものである。その方法論は、研究対象としたトマトのみならず、多くの育種現場で応用できると考えられる。

以上のように、本論文は、新しい知見を有し、その実用性も高いこと、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士(農学)の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

なお、本論文では単為結果性と短節間性の2形質について効率的選抜法を開発し、両形質を有する品種育成の可能性を論じていることから、最終試験での質疑応答の結果、論文題目を「トマト育種における単為結果性と短節間性の効率的選抜法の開発と両形質を併せ持つ系統の育成」と修正することとした。